
主しゅがあなたを祝しゅく福ふくし、あなたを守まもられるように。

主しゅが御み顔かおを向むけてあなたを照てらし、あなたに恵めぐみを与あたえられるように。

主しゅが御み顔かおをあなたに向むけて、あなたに平へい安あんを賜たまるように。

— 民数記 6 章 —
しんすうき しょう

2014年 春

2011年 3, 11の春。4月21日。入学式がこの日になるとは、誰も予想しなかった。トンネルをくぐるような長い長い待ち時間。そしてやっと、あなたに会えた。制服が間に合わずに中学の服で来た人。急ぎよの貸し出し。仮設からの高校生活スタートの人たち。しかし、会えたのはうれしかった。不安で何かに頼りたそうな顔顔……。心のダメージが心配され、取りざたされた。

しかし、元氣のかたまり。若さは、強さ。

「人の作った物の、いかなる物も無力であることを、主よ、あなたがお示しになったことは、あまりにも大きい。何があっても私たちはつぶれず、支え合い、新しく生きようとする。前へ進もうとする。それをさとするにも、これほどの大きい試練がありました。」

未来を担う子どもたちが私たちの希望です。これから大きな負荷を背負うことになる子どもたちと一緒に育つ現場にいる私たちに、あなたのお与えになる使命をください。

私たちの愛し育てる子どもたち・生徒たちが、自分が愛されたように他の人を愛し、傷ついた人を抱きしめ、社会を新しく作ってゆくために忍耐強く勇気と知恵のある人になりますように。」

(震災の年の祈り)

これからは、毎日の目の前から、みんなの姿が見えなくなるのは、さみしいこと。
しかし、何があっても、何にぶつかっても、あなたの足もとを見ると、未来がある。

(国語科 高橋 覚)